

第3学年 外国語（英語）科学習指導案

令和4年10月14日（金）5校時
嘉手納町立嘉手納中学校3年2組計33人
授業者 東太田 理恵 印

1 単元名

年間指導計画 p6（10月）指導内容

Unit 4 AI Technology and Language 【Here We Go! English COURSE 3】

Let's Read 2 Robots Make Dreams Come True 【Here We Go! English COURSE 3】

2 単元の目標

- （1）「主格の関係代名詞 that, which, who」を用いた文の構造を理解することができる。
- （2）日常的な話題や社会的な話題（AI技術と言語、社会で活躍するロボットなど）について書かれた文章を読み、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて伝え合うことができる。そして、それらを基に、考案したロボットについて伝えることができる。
- （3）日常的な話題や社会的な話題（AI技術と言語、社会で活躍するロボットなど）について書かれた文章を読み、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて伝え合おうとしている。そして、それらを基に、考案したロボットについて伝えようとしている。

3 単元について

（1）教材観

本単元では、中学校学習指導要領の「話すこと〔発表〕」と「書くこと」に関連する内容を取り扱い、最終的には「書くこと」の「ウ. 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする」ことを目標とする。

言語材料は、主格の関係代名詞 that, which, who を取り扱っている。

題材としては、Unit 4 では、AI技術が日常生活に浸透しつつあるなか、AI翻訳機について登場人物が自分の意見を述べている。Let's Read 2 は、様々な場所で活躍しているロボットを取り上げ、ロボットと社会の融合について考えることができる内容である。Unit 4 と Let's Read 2 を通して、読んだことを基に自分の考えや感じたことを伝え合いながら、オリジナルロボットを考え、それらを伝える表現活動につなげていきたい。

（2）生徒観

①単元・教材に対する生徒観

単元開始前のアンケート調査では、8割強の生徒が外国語を学ぶことに肯定的な意見を持っていたが、AI技術の進歩により翻訳ソフトの質も向上したため、「外国語を学ぶ必要もなくなるのでは」と考える生徒もいた。デジタル技術をうまく活用しながら、これまで大切にしてきた言語や文化といった、その土地・国によって異なる特徴を理解する心も育む必要がある。言語面においては、関係代名詞を初めて学習する。主格の関係代名詞を用いることで、名詞（先行詞）の説明が加えやすくなることに着目させ、理解につなげたい。

②生徒の実態

明るく活発に活動する生徒が多い学級である。また、英検準2級以上の取得者も数名在籍しており、他クラスと比べると英語学習への興味関心が高い集団である。一方で、英語を苦手とする生徒も5名程度おり、授業中は自信が無い表情を見せることも少なくない。そこで、お互いに助け合えるペア・3人グループで座席配置をしている。そうすることで、それぞれが協力しながら活動することができると思う。

（3）指導観

Unit 4 から Let's Read 2 の2つの単元を通して、毎時間の帯活動で他者の意見を読んだ後に、ペアで考えたことや感じたこと、その理由を伝え合う言語活動を継続的に実施する。話

題は日常的なものから入り，教科書で取り扱う社会的な話題に移行していきたい。この言語活動を通して，表現や説明の仕方にも慣れさせ，自信をもって活動に取り組もうとする主体的な態度も育みたい。

本単元では，Unit 4 で AI 技術と言語について考え，Let's Read 2 で AI 技術を搭載した「人を支えるロボット」について学ぶ。その後，「人を助けるオリジナルロボット」について考え，英語で紹介し合う活動を展開していきたい。紹介し合う際も 1 回の発表で終わるのではなく，異なる相手に複数回伝える活動を通して，聞き手に伝えるための効果的な方法にも気づかせたい。

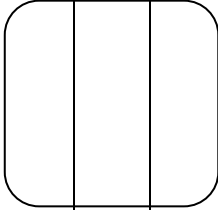
4 単元の評価規準（「話すこと [発表]」と「書くこと」の領域統合〈最終的には「書くこと」を見取る〉）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] ・主格の関係代名詞 that, which, who などの特徴やきまりを理解している。 [技能] ・主格の関係代名詞などを用いて，AI 技術と言語，社会で活躍するロボットなどについて考えたことや感じたこと，その理由や，考案したロボットについて伝える技能を身に付けている。	AI 技術と言語，社会で活躍するロボットなどについて書かれた文章を読み，考えたことや感じたこと，その理由などを，英文を引用するなどしながら簡単な語句や文を用いて伝える。そして，それらを基に考案したロボットについて伝えている。	AI 技術と言語，社会で活躍するロボットなどについて書かれた文章を読み，考えたことや感じたこと，その理由などを，英文を引用するなどしながら簡単な語句や文を用いて伝え合おうとしている。そして，それらを基に考案したロボットについて伝えようとしている。

5 単元の指導計画・評価計画

時間	課	目標 (■) 及び主な言語活動 (●)	評価
1 ~ 12	Unit 4	■ 日常的话题や AI 技術と言語について書かれた英文を読み，考えたことや感じたこと，その理由などを，英文を引用するなどしながら簡単な語句や文を用いて伝え合うことができる。 ● 投稿文を読んだ後に，ペアやグループで考えたことや感じたことなどを，英文を引用するなどしながら簡単な語句や文を用いて伝え合う。その後，話した内容を踏まえながら自分の考えなどを書いてまとめていく。 ● 単元を通して，毎時間の帯活動で身近な話題に関する「話すこと（やり取り）」の言語活動 (Small Talk) を行う。	・本課最後の授業における言語活動において，評価規準に照らした評価を活動の観察により行う。 ・後日パフォーマンステストを行う。
13 ~ 15	Let's Read 2	■ 日常的话题や社会で活躍するロボットについて書かれた英文を読み，読んだことを基に考えたことや感じたこと，その理由などを，英文を引用するなどしながら簡単な語句や文を用いて伝え合うことができる。 ● 説明文を読んだ後に，ペアやグループで考えたことや感じたことなどを理由とともに伝え合う。 ● 単元を通して，毎時間の帯活動で身近な話題に関する「話すこと（やり取り）」の言語活動 (Small Talk) を行う。	・本課最後の授業における言語活動において，評価規準に照らした評価を活動の観察により行う。 ・後日パフォーマンステストを行う。

オリジナルロボットについて考えよう ○は記録に残す評価

時間	目標・ねらい (■) 及び主な言語活動 (●)	知	思	態	備考
16	■ 単元の目標を理解する。 ■ AI 技術と言語，社会で活躍するロボットについて書かれた文章を読み，読んだことを基に考えたことや感じたこと，その理由なども交えながら，オリジナルロボットを考える。 ● 「人を助けるロボット」についてグループでアイデアを				・毎時間の帯活動で身近な話題に関する「話すこと（やり取り）」の言語活動 (Small Talk) を行う。

	出し合い、プランシートを作成する。場面設定を「未来の生活を豊かにするために、『次世代ロボットコンテスト』にて、アイデアをプレゼン発表する」とする。				・自分の考え等を伝える際は、語句ではなく文で伝えさせる。 記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確認に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。
17	■プランシートを基に、プレゼン発表の原稿を考える。 ●ロボットについて伝えるための表現を確認する。(This is a robot which (that) ..., We agree with Mr. Yoshifuji because...など) ●発表内容をまとめる。				
18 本時	■聞き手を意識しながら、考案したロボットについて伝えることができる。 ●2グループ合同でプレゼン発表を行い、互いの良い点、改善点、聞き手を意識した効果的な発表方法について考える。		○	○	
19	■聞き手を意識しながら、考案したロボットについて工夫しながら伝えることができる。 ●教室内に発表ブースを4カ所設置し、考案したロボットについてプレゼン発表をし合う。プレゼン発表は各グループ4回行う。 ●発表後に印象に残ったロボットを投票で決める。		○	○	
後日	パフォーマンステスト（書くこと） ■オリジナルロボットについて伝えよう。	○	○	○	

6 本時の指導 「オリジナルロボットを考えよう」（18/20時間）

(1) ねらい 聞き手を意識しながら、考案したロボットについて伝えることができる。 [発表]

(2) 本時の評価規準

評価の観点	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	AI 技術と言語、社会で活躍するロボットなどについて書かれた文章を読み、読んだことを基に考えたことや感じたこと、その理由なども交えながら、考案したロボットについて伝えている。	AI 技術と言語、社会で活躍するロボットなどについて書かれた文章を読み、読んだことを基に考えたことや感じたこと、その理由なども交えながら、考案したロボットについて伝えようとしている。
評価方法	授業内：観察 授業後：ワークシートの確認	授業内：観察 授業後：ワークシート、自己評価シート等の分析

(3) 「めざす子どもの姿」の実現に向けた授業改善(教材・発問・問い返し・過程工夫等)

場面	工夫点（発問等）	子どもの姿
主体的に「問い」をもち、自分なりの考えをもつ		
場面：展開前半3-② 発表者・聞き手、それぞれの立場で、良かった点・改善点等について意見を出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> What is the points when you do a presentation? What is the points when you listen to a presentation? 	発表者と聞き手のそれぞれの立場での行動目標を確認することで、それらを意識した発表に向かうことができる。
他者との交流を通し、「問い」が生まれ自分の考えを広げ深める		
場面：展開前半3-④ グループで効果的な発表方法について練り直す。	Please think about how to improve (brush up) your presentation.	全体で共有した聞き手を意識したポイントをふまえて、より良い発表につなげるために話し合う。
学びの過程を振り返り、新たな「問い」をもつ		
場面：まとめ ふり返りの視点について自分の考えをまとめる	聞き手を意識することで、新しく発見した自分の考え方や気づきはありましたか？それを書いてみましょう。	今日の授業内容をふり返り、次時のプレゼン発表会に向けての決意や目標を各々で考え始める。

(4) 展開

過程	学習活動・内容・発問等	予想される生徒の反応	指導上の留意点, 評価等
導入 12分	1. Greetings & 帯活動 ①Small Talk (R1 & R2) 2. Today's Goal	1-①ペア・グループで Opinion Sheet に対する自分の意見を伝え合う。	1-①タブレット端末の活用 1-①机間指導しながら, 全体の取り組み状況を確認する。
めあて: 聞き手を意識しながら、考案したロボットについて伝えよう!			
展開前半 23分	3. Presentation ① ①2つのグループで互いにプレゼン発表を行う。(1回目) ②発表者・聞き手の立場で、良かった点・改善点・さらによくなるポイント等について考える。(個人→グループ) ③各グループの意見を全体で共有する。(ロイロノート使用) ④グループで効果的な発表方法について確認し、練り直す。	3-①発表者 照れながら発表する。原稿を凝視ながら話す。 3-①聞き手 相手の話を無言で聞く。 3-②発表者・聞き手、それぞれの立場で感じたこと等について意見を出し合う。 目線/姿勢(立ち方)/相づち等 3-③自分達の改善点やさらによくなる点について気づく。 3-④プレゼン発表をブラッシュアップするために、グループ内で話し合う。	2 単元ゴールと本時のゴールを示す。 3-①各グループの1回目の発表を観察する。 3-②タブレット端末の活用 3-②ワークシートを全員に配布する。ロイロノートのカードをグループ代表者に送信。 3-③提出してもらったカードを比較しながら共有する。 3-③生徒達の意見に付け加えたいポイントがあった場合は、気づいてもらえるようヒントを与える。
展開後半 10分	4. Presentation ② ①再度、2つのグループで互いにプレゼン発表を行う。(2回目) ②1回目と比べて、良かった点をアドバイスし合う。	4-①発表者 改善点に気を付けながら、聞き手を意識し発表する。 4-①聞き手 相手の発表を相づちをうちながら聞く。	【評価対象: 発表者】 【評価: 観察】
まとめ 5分	5. Conclusion ①Today's 1文(まとめ) プレゼン発表時に、聞き手を意識しながら、特に思いを込めて伝えた表現 ②Reflection(ふり返し) 視点: 聞き手を意識することで、新しく発見した自分の考え方や気づきは? 自己評価シートの回収	5-①発表で自分が担当した表現を自己評価シートに記入する。 5-②振り返りの視点について、自分の考えを記入する。	

7 板書計画

<p>【電子黒板】</p> <p>随時、活動に関する情報を投影する</p> <p>1. Opinion Sheet (帯活動)</p> <p>2. ロイロノート・カード</p>
--

<p>単元 Goal: 私達のこれからの生活を Happy にする『次世代ロボット』を考え、プレゼン発表しよう!</p> <p>Goal: 聞き手を意識しながら、考案したロボットについて伝えよう!</p> <table border="0"> <tr> <td>発表者の気を付ける点</td> <td>聞き手のポイント</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・話すスピード ・声の大きさ ・アイコンタクト ・”Hi”等のあいさつ </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・相づちをうつ ・聞き逃したら、聞き返す </td> </tr> </table> <p>Today's 1文 自分が発表で使った表現を記入する。</p> <p>Reflection 聞き手を意識することで、新しく発見した自分の考え方や気づき</p>	発表者の気を付ける点	聞き手のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・話すスピード ・声の大きさ ・アイコンタクト ・”Hi”等のあいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・相づちをうつ ・聞き逃したら、聞き返す
発表者の気を付ける点	聞き手のポイント			
<ul style="list-style-type: none"> ・話すスピード ・声の大きさ ・アイコンタクト ・”Hi”等のあいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・相づちをうつ ・聞き逃したら、聞き返す 			